
第2章 事前調査

- 1. 事前調査結果の要約**
- 2. 既存調査資料の分析**
- 3. くしろ管内居住者グループインタビュー**
- 4. くしろ管内流通事業者インタビュー**
- 5. くしろ管内観光事業者インタビュー**

1. 事前調査結果の要約

1) 既存調査分析

「地域ブランド調査2010」/株ブランド総合研究所では、くしろ地域から釧路市と弟子屈町を取り上げ、全国各都市とともに認知度・魅力度・観光意欲度・産品購入意欲度など地域ブランドの基本指標を確認している。

結果を概観すると、釧路市の認知度は全国諸都市の認知度平均を大きく上回っているが「名前だけは知っている」程度の認知が7割以上を占めており、名称認知が中心となっていることが分かる。また、弟子屈町は、摩周湖・屈斜路湖・川湯温泉等の認知は比較的高いものと思われるが、町名の認知には結びついていないことが分かる。

魅力度では釧路市は全道順位6位（全国33位）、観光意欲度は全道順位6位（全国22位）と高いものとなっている。ただし、「とても魅力的」、「ぜひ行ってみたい」とする積極的な評価は現状においては高いとはいえない。

物産の購入意欲度に関しては、魅力度・観光意欲度等の順位を下回る結果となっており、地元の名産品・特産品としてイメージできる産品が少ないことが窺える結果となっている。

2) グループインタビュー

くしろの物産≒「食」として、各種農産物、海草ポーク・星空の黒牛等の畜産物、チーズ等の乳製品、ししゃも・エゾ鹿肉等の特産品、福司・鍛高譚等の酒類、釧路ラーメン・ザンタレ・えもん丼などの手軽な料理、地元の食材を使用したレストラン、郷土料理等、幅広いくしろの「食」が挙げられており、“トータル的に優れた地域なのかなと常々感じている”というコメントのように、海産物だけではない、物産に恵まれたエリアであることは地域住民の共通の認識となっている。

しかし、生産者が努力して生産している食材でも、実際には地元で入手することが難しいものも多く、食べる機会が少ないようであり、地元での消費を望むコメントが挙げられた。その意味では、一部の物産において、地域住民がその価値を共有しているという地域ブランドの基本的な条件を満たしていないことが窺える結果となっている。

“他の地域と比べると、地域の意識が薄いのかもしれない”というコメントのように、観光資源として多くのポイントが挙げられたものの、意外と居住地周辺の観光資源としての魅力には気づいていない人が多いようであり、普段意識して見ることのない景観などの良さが外部からの情報で改めて分かったというコメントが多く見られた。

現状のくしろ地域の観光については、地域内に一定時間滞在する観光客は少なく、特定のポイントのみに立ち寄り、通過しているケースが多いため、くしろエリアの良さは伝わらないというコメントが多く見られたが、一方では夏の避暑地として好評であり、夏場に長期滞在客でにぎわう宿泊施設もあるというコメントも挙げられている。

歴史・文化の深さは、地域ブランドの重要な要素であるストーリー付けの素材となるとのコメントも挙げられており、物産や観光資源との関連付けが必要であることが指摘されている。

全体を通して、食、観光面でのPR不足に関するコメントが多く挙げられ、特に、“地域内でまず、宣伝なりいろいろなことをして根付かせないと”というコメントのように、地域の人々への情報発信の重要性が指摘されている。

3) 流通事業者インタビュー

いずれの業者も地元素材を生かした商品、ブランドを作り、売り出したいという意識があり、差別化できる・話題性のある・付加価値の高い商品作りに力を注いでいるようである。個別業者によるブランド化の取り組みの他、行政による試みも見られる。

しかし、地元素材を使用すること自体でコストがかかり、商品開発にも大きなコストがかかるため、意欲はあってもなかなか踏み込めないという事業者も見受けられる。

販売促進については、インターネットを中心に、郵便局の利用、量販店ギフトカタログ、物産展、東京の商店街での販売（イベント参加）、ホテルや流通業者への個別の展開などの活動が行われているが、商品開発を行っても流通に乗せるのが難しい、経費負担面から物産展などへの参加を躊躇している等の問題点も挙げられた。

広域ブランド（あくまでも物産を対象としたブランド展開が想定されている）についての必要性は大半が認めており、ブランドに対する意識を高めるための地域間の交流、振興局など推進窓口の一体化、認証基準の検討などが必要といったコメントが挙げられた。

4) 観光事業者インタビュー

観光協会においては地域情報の有効な発信方法の模索、ニューツーリズム（着地型・滞在型旅行）の取り組み等が十分でないこと、宿泊施設については、景気回復の遅れ、航空路線の縮小・撤退、観光ルートの変化などによる観光客の減少、オールシーズンを通した観光客誘致が進まないこと（閑散期対策）などが課題となっており、対策としては、こだわりを持つ旅行者をターゲットとした商品造成、スポーツ合宿の誘致、リピーターの確保、増加しているインバウンド旅行者の対応整備、旅行会社との連携強化などが方向性として挙げられた。

地産地消の取り組みの有用性については、いずれの施設も認識しているが、実際の取り組みに関しては、コスト面、安定的な供給体制の確保、安全性の確保等に対するリスクから、思うようには進んでいないのが現状のようである。

広域ブランド推進への取り組みについては、一部ネガティブなコメントも見られたが、全体的に好意的なコメントが多かった。各地域、事業者単独での情報発信に対する限界を感じるという声も多く、くしろ管内の様々な個別ブランドを連携してより大きな地域ブランドとして取りまとめるような活動に対する期待感は大いい。

2. 既存調査資料の分析

調査概要

現状における「くしろ」地域のポジショニングを把握するための資料として、「地域ブランド調査2010」／株式会社ブランド総合研究所を参照。調査概要は以下の通り。

- 回答者： 年齢20代～60代の消費者
(20代～50代は各年代別にほぼ同数ずつ)
 - 有効回答者数：34,257人
 - 調査方法： インターネット調査
 - 調査時期： 2010年7月2日～13日

 - 調査対象： 1000市町村
786市(2010年4月時点での全市)
東京都特別区
191町村(ブランド総合研究所が選定)
※くしろ管内では弟子屈町のみ
47都道府県
-

1) 認知度／ランキング

釧路市の認知度は全道順位 8 位 (道内 60 市町村中)・全国順位 101 位 (全国 1000 市町村中) で、大変高い認知度を有していることが分かる。ただし、回答内訳では「名前だけは知っている」の回答が最も多く、釧路市の物産や観光地から都市名が認知されているというよりも、地名としての「釧路」が認知されている可能性が高い。釧路は、全国放映の天気予報において北海道地域の設定地として札幌の次に設定されることが多く、そのことが理由のひとつも考えられる。

一方、弟子屈町に関しては全道順位 40 位・全国順位 701 位となっており地名認知度は低い。またその回答内訳において「名前も知らない」の割合が 72.9%となっており、国内有数の観光資源と言われる摩周湖・屈斜路湖を有する同町の認知度としては予想以上に低いといえる。これは、摩周湖・屈斜路湖といった全国的に認知度の高い観光資源の所在地としての弟子屈町が広く認知されていないためと考えられる。

道内順位	市区町村名	認知 (Q1)							
		よく知っている	知っている	少しだけ知っている	名前だけは知っている	名前も知らない	認知度順位	認知度	前年度認知度
	単位	%	%	%	%	%	位	点	点
	全国平均	2.8	7.4	10.0	28.8	49.8	-	20.8	21.5
	北海道	14.0	28.5	40.9	16.4	0.0	-	60.0	59.9
1	札幌市	16.6	32.6	22.0	27.8	0.7	8	59.2	59.4
2	函館市	12.7	26.9	24.2	35.3	0.8	13	53.9	56.4
3	夕張市	9.0	30.7	23.7	34.9	1.5	16	52.7	57.2
4	小樽市	9.7	27.5	20.1	39.5	2.6	25	50.5	52.2
5	富良野市	7.1	24.3	21.0	44.0	3.2	46	47.1	50.5
6	旭川市	7.8	23.4	18.3	47.8	2.5	49	46.6	48.8
7	網走市	5.9	21.5	20.2	48.9	3.2	64	44.5	46.2
8	釧路市	4.5	17.9	18.4	57.3	1.7	101	41.5	44.8
9	千歳市	4.6	17.4	17.9	50.0	9.6	120	39.3	42.7
10	苫小牧市	5.3	15.4	11.7	63.4	4.1	126	38.6	40.8
40	弟子屈町	1.7	4.5	4.9	13.9	72.9	701	11.2	11.7

11位帯広市、13位根室市、17位ニセコ町、21位北見市

< 認知度指標の算出方法 >

「以下の自治体について、どの程度ご存知ですか？」という問いに対して、「よく知っている」を100点、「知っている」を75点、「少しだけ知っている」を50点、「名前だけは知っている」を25点、「名前も知らない」を0点として、それらを加重平均して点数を算出した。

認知度 = 100点 × 「よく知っている」回答者割合 + 75点 × 「知っている」回答者割合
+ 50点 × 「少しだけ知っている」回答者割合 + 25点 × 「名前だけ知っている」回答者割合

1) 認知度／属性別傾向

釧路市の認知度に関する属性別結果を検証すると、地域別では中部以西の地域で認知度が低くなっている。年代別では年代が上の方ほど認知度が高まる傾向は他地域と同様で、性別による大きな特徴は見られない。なお、この傾向は弟子屈町においても同様の結果となっている。

【認知度：釧路市・弟子屈町の属性別ポイント表】

属性	サンプル数	認知度					認知度	
		よく知っている	知っている	少しだけ知っている	名前だけは知っている	名前も知らない		
単位	人	%	%	%	%	%	点	
全国平均	642	2.8	7.4	10.0	28.8	49.8	20.8	
釧路市	全体	722	4.5	17.9	18.4	57.3	1.7	41.5
居住地	北海道・東北	84	6.3	24.6	26.5	39.7	2.9	47.9
	関東	247	6.6	22.6	19.0	50.6	0.6	46.0
	中部	133	4.6	17.4	8.5	67.3	2.2	38.7
	近畿	138	1.1	13.5	23.4	60.1	2.0	37.9
	中国・四国	55	0.0	11.6	16.9	66.8	4.7	33.8
九州・沖縄	66	4.8	6.7	17.0	71.5	0.0	36.2	
年代	20代	148	2.0	17.5	15.6	59.5	5.5	37.7
	30代	154	5.5	13.4	17.7	62.3	1.1	40.0
	40代	122	6.3	18.5	14.7	59.1	1.3	42.4
	50代	155	4.4	14.6	24.2	55.3	0.5	41.7
	60代以上	144	4.4	26.0	19.1	50.4	0.0	46.1
性別	男性	369	5.1	17.4	21.1	54.1	2.3	42.2
	女性	353	3.8	18.4	15.7	60.7	1.0	40.8
弟子屈町	全体	722	1.7	4.5	4.9	13.9	72.9	11.2
居住地	北海道・東北	84	5.0	15.9	10.3	21.9	46.9	27.5
	関東	247	1.9	3.6	5.1	18.3	69.2	12.0
	中部	133	2.0	2.2	0.7	8.5	84.7	6.2
	近畿	138	0.6	1.8	6.3	14.7	73.3	9.0
	中国・四国	55	0.0	5.4	5.6	5.4	79.6	8.6
九州・沖縄	66	0.0	3.1	1.8	3.2	90.1	4.1	
年代	20代	148	0.0	0.8	1.3	11.3	86.6	4.1
	30代	154	1.8	4.5	2.4	6.8	82.4	8.2
	40代	122	2.2	2.3	3.2	12.7	78.1	8.8
	50代	155	2.8	3.6	9.3	17.6	64.1	14.9
	60代以上	144	1.8	11.1	7.9	21.3	53.9	20.2
性別	男性	369	1.9	3.8	5.6	14.7	71.8	11.5
	女性	353	1.5	5.2	4.1	13.1	74.1	10.9

2) 魅力度／ランキング

釧路市の魅力度は全道順位6位・全国順位33位、弟子屈町の魅力度は全道順位32位・全国順位390位となっており、両市町とも魅力度指標のランキングが認知度指標を上回っている。「とても魅力的」と「やや魅力的」を合わせた回答結果は、釧路市が46.1%、弟子屈町が8.4%となっておりこちらも認知度よりも高いポイント結果となっている。

道内順位	市区町村名	魅力 (Q2)							魅力度	前年度魅力度
		とても魅力的	やや魅力的	どちらでもない	いあまり魅力的でない	全く魅力的でない	魅力度順位	魅力度		
	単位	%	%	%	%	%	位	点	点	
	全国平均	1.9	10.0	27.7	5.2	3.8	-	6.9	7.3	
	北海道	48.4	39.2	9.4	2.1	0.6	-	68.0	68.9	
1	札幌市	32.6	48.8	14.7	1.6	1.3	1	57.0	56.4	
2	函館市	28.9	53.1	14.9	1.0	0.9	2	55.5	58.8	
3	小樽市	23.8	47.1	22.1	2.9	1.0	5	47.3	50.5	
4	富良野市	19.2	49.7	22.0	3.2	2.1	8	44.0	47.6	
5	旭川市	7.3	44.0	37.2	4.4	3.7	27	29.3	32.2	
6	釧路市	6.5	39.6	41.2	6.3	4.5	33	26.3	30.7	
7	登別市	6.7	36.4	37.2	5.1	5.1	42	24.9	26.8	
8	帯広市	7.1	32.9	43.5	7.5	4.7	48	23.5	24.5	
9	洞爺湖町	8.9	28.6	24.8	3.4	4.2	50	23.2	24.3	
10	美瑛町	10.9	21.9	18.5	2.4	2.0	57	21.9	20.7	
32	弟子屈町	1.8	6.6	13.3	2.1	1.0	390	5.1	5.9	

11位ニセコ町、17位根室市、18位網走市、25位北見市

< 魅力度指標の算出方法 >

「以下の自治体について、どの程度魅力を感じますか?」という問いに対して、「とても魅力的」を100点、「やや魅力的」を50点、「どちらでもない」、「あまり魅力を感じない」、「全く魅力的でない」を0点として、それらを加重平均して点数を算出した。なお、認知度の設問において、当該自治体を「名前も知らない」と答えた人も含めた全回答者を対象に集計した。

魅力度 = 100点 × 「とても魅力的」回答者割合 + 50点 × 「やや魅力的」回答者割合

2) 魅力度／属性別傾向

釧路市は「北海道・東北」以外の地域において高いポイントとなっている。一方、「北海道・東北」地域外での認知が低い弟子屈町については、「北海道・東北」エリアでのポイントが高くなっている。また、年代別では、両市町とも60代以上の回答者からの魅力度が最も高くなっている。

【魅力度：釧路市・弟子屈町の属性別ポイント表】

属性	サンプル数	魅力度					魅力度 点	
		とても魅力的	やや魅力的	どちらでもない	あまり魅力的ではない	全く魅力的ではない		
単位	人	%	%	%	%	%	点	
全国平均	642	1.9	10.0	27.7	5.2	3.8	6.9	
釧路市	全体	722	6.5	39.6	41.2	6.3	4.5	26.3
居住地	北海道・東北	84	3.9	36.3	36.7	16.1	4.1	22.1
	関東	247	7.3	40.3	40.5	6.7	4.0	27.4
	中部	133	8.3	33.2	43.5	5.6	7.1	24.9
	近畿	138	5.1	48.6	36.6	4.2	3.7	29.4
	中国・四国	55	5.3	48.4	36.9	1.7	3.0	29.5
	九州・沖縄	66	7.0	28.1	58.3	1.8	4.8	21.0
年代	20代	148	7.1	38.6	34.7	4.4	9.8	26.4
	30代	154	8.6	33.6	40.6	9.9	6.1	25.4
	40代	122	6.2	34.2	46.1	8.2	4.0	23.3
	50代	155	6.2	39.4	46.8	4.3	1.9	25.9
	60代以上	144	4.1	51.9	38.3	4.8	0.8	30.1
性別	男性	369	6.3	37.6	40.6	6.3	6.9	25.1
	女性	353	6.7	41.7	41.8	6.3	2.1	27.6
弟子屈町	全体	722	1.8	6.6	13.3	2.1	1.0	5.1
居住地	北海道・東北	84	5.2	16.5	20.7	8.1	2.5	13.5
	関東	247	2.4	5.9	16.8	2.7	0.8	5.4
	中部	133	0.0	6.4	5.6	0.7	0.7	3.2
	近畿	138	0.6	5.0	15.8	0.6	1.4	3.0
	中国・四国	55	3.5	3.5	9.4	0.0	0.0	5.2
	九州・沖縄	66	0.0	3.1	5.1	0.0	0.0	1.5
年代	20代	148	1.6	2.1	5.5	2.1	2.1	2.7
	30代	154	0.0	4.9	7.1	2.0	1.4	2.5
	40代	122	0.6	5.2	12.2	2.4	0.0	3.2
	50代	155	2.8	7.3	19.8	1.8	1.1	6.4
	60代以上	144	3.9	13.5	22.2	2.4	0.0	10.7
性別	男性	369	1.8	6.9	12.7	3.7	1.1	5.2
	女性	353	1.9	6.4	14.1	0.5	0.8	5.0

3) 観光意欲度／ランキング

釧路市の観光意向度は全道順位 6 位・全国順位 22 位、弟子屈町の観光意向度は全道順位 38 位・全国順位 345 位となっている。いずれも認知度・魅力度に比べ全国順位は上がっており高い観光意欲度を与えている地域と推測される。「ぜひ行ってみたい」・「機会があれば行ってみたい」という積極的な観光意欲度をあわせた数値は釧路市が 68.9%、弟子屈町が 27.4%と大変高い。

道内順位	市区町村名	観光意欲 (Q9)						観光意欲度	前年度観光意欲度
		ぜひ行ってみたい	機会があれば行つ	どちらともいえない	はあまり行きたくない	観光意欲度順位	観光意欲度		
	単位	%	%	%	%	位	点	点	
	全国平均	5.0	23.4	40.5	27.9	-	16.7	17.2	
	北海道	60.8	30.4	6.3	2.0	-	75.9	78.1	
1	札幌市	46.4	41.1	7.4	4.0	1	67.0	69.7	
2	函館市	42.2	46.1	5.5	5.2	2	65.2	69.4	
3	富良野市	34.5	47.1	9.6	8.2	4	58.0	61.2	
4	小樽市	34.1	46.9	11.8	5.9	5	57.6	60.0	
5	旭川市	21.5	51.3	15.9	10.2	16	47.2	52.2	
6	釧路市	18.5	50.4	18.4	12.1	22	43.7	48.5	
7	稚内市	17.3	49.7	18.9	12.4	26	42.1	43.9	
8	登別市	15.9	50.4	19.4	12.8	29	41.1	47.6	
9	帯広市	14.4	52.9	18.7	13.0	32	40.9	42.1	
10	洞爺湖町	20.2	40.7	19.5	17.4	33	40.5	43.1	
38	弟子屈町	6.6	20.8	42.8	27.1	345	17.0	18.1	

12位根室市、16位ニセコ町、19位網走市、22位北見市

< 魅力度指標の算出方法 >

「今後、各自治体に観光や旅行に行きたいと思いませんか?」という問いに対して、「ぜひ行ってみたい」を 100 点、「機会があれば行ってみたい」を 50 点、「どちらともいえない」を 0 点、「あまり行きたいとは思わない」を 0 点として、加重平均した数値を算出した。なお、本設問で無回答のものについては 0 点とした。

観光意欲度 = 100 点 × 「ぜひ行ってみたい」回答者割合 + 50 点 × 「機会があれば行ってみたい」回答者割合

3) 観光意欲度／属性別傾向

釧路市への観光意欲度が「北海道・東北」以外の地域で高い結果となっている。弟子屈町に関しては、「九州・沖縄」地域が若干低い以外、エリアによる大きな傾向の差は見られない。年代別では、両市町とも50代以上での観光意欲度が、それ以下の年代をやや上回っている。この結果から若い世代の人よりも中高年層からの支持が高いことが分かる。

なお、認知度のポイントよりも観光意欲度のポイントが高く出ると言うことは、「イメージ先行型」であると考えられる。その地域についてよく知らないけれども、何となく行ってみたい気がするといった曖昧さが見て取れる。これは、イメージ戦略上は有効に作用していると考えられるが、認知度が上がった段階（正しく地域資源を認知した状態）での観光意欲度との対比が必要であると考えられる。

【観光意欲度：釧路市・弟子屈町の属性別ポイント表】

属性	サンプル数	観光意欲度					観光意欲度 点
		ぜひ行ってみたい	機会があれば行ってみたい	どちらともいえない	あまり行きたいとは思わない	点	
単位	人	%	%	%	%	点	
全国平均	642	5.0	23.4	40.5	27.9	16.7	
釧路市	全体	722	18.5	50.4	18.4	12.1	43.7
居住地	北海道・東北	84	16.9	41.2	20.1	21.8	37.5
	関東	247	17.5	52.7	17.4	11.7	43.9
	中部	133	17.6	51.9	18.3	11.0	43.5
	近畿	138	19.0	52.0	18.1	10.5	44.9
	中国・四国	55	25.5	51.7	11.3	11.6	51.3
	九州・沖縄	66	19.1	46.2	26.9	7.9	42.2
年代	20代	148	17.6	48.8	17.2	16.4	42.0
	30代	154	16.9	48.7	16.8	16.5	41.3
	40代	122	17.8	49.8	19.8	11.5	42.7
	50代	155	21.7	50.3	17.3	10.3	46.8
	60代以上	144	18.2	54.6	21.5	5.7	45.5
性別	男性	369	17.4	49.2	19.2	13.9	42.0
	女性	353	19.6	51.7	17.7	10.3	45.5
弟子屈町	全体	722	6.6	20.8	42.8	27.1	17.0
居住地	北海道・東北	84	6.9	23.3	33.5	33.7	18.6
	関東	247	8.4	20.7	41.2	27.2	18.8
	中部	133	5.5	17.7	50.6	22.7	14.4
	近畿	138	5.6	23.9	43.1	24.8	17.5
	中国・四国	55	7.0	25.8	42.3	25.0	19.9
	九州・沖縄	66	3.1	14.1	44.8	33.8	10.1
年代	20代	148	2.7	16.5	49.0	30.4	11.0
	30代	154	6.1	15.6	45.9	31.3	13.9
	40代	122	6.2	20.8	43.2	28.5	16.6
	50代	155	10.0	20.1	44.5	23.8	20.0
	60代以上	144	7.7	31.6	31.0	21.7	23.5
性別	男性	369	5.9	19.1	42.7	30.1	15.4
	女性	353	7.3	22.6	42.9	24.0	18.6

4) 産品購入意欲度／ランキング

産品購入意向度のランキングでは、釧路市、弟子屈町ともに、認知度・魅力度・観光意欲度ランキングの順位を下回る結果となっている。地元の名産品、特産品とイメージできる産品が少ないことが窺える。

また、釧路市に関しては他の道内都市同様、「食品」のポイントが「食品以外」を大きく上回っており北海道の食に対する購入意欲の高さが顕著にでていますが、弟子屈町に関しては大きな違いは見られない。

道内順位	市区町村名	産品購入意欲(Q10)			
		食品	食品以外	位	産品購入意欲度
	単位	点	点	位	点
	全国平均	5.9	1.7	-	7.5
	北海道	92.0	15.1	-	107.0
1	札幌市	75.5	13.4	1	88.9
2	夕張市	64.4	5.3	2	69.6
3	函館市	56.5	9.9	3	66.4
4	小樽市	38.9	18.5	6	57.4
5	富良野市	26.5	19.7	13	46.1
6	石狩市	34.0	4.1	25	38.1
7	根室市	26.4	4.8	38	31.2
8	旭川市	23.1	7.1	43	30.2
9	利尻町	27.1	3.1	43	30.2
10	釧路市	24.8	4.8	47	29.6
56	弟子屈町	1.4	1.2	685	2.5

11位帯広市、12位網走市、20位北見市

<産品購入意欲度指標の算出方法>

「それぞれの自治体で、あなたが購入したいものがあれば、具体的な産品名をお書きください」という問いに対して、各市区町村の「食品」、「食品以外の産品」枠にそれぞれ3品まで、自由記述で回答してもらい、100人当たりの記入数でスコアを算出している(サンプル数には無回答を含む)。ここでは、「食品」、「食品以外」と2項目を合算した「総合」の3項目についてスコアを算出している。

$$\text{産品購入意欲度} = (\text{食品} + \text{食品以外記入数}) / \text{サンプル数} \times 100$$

4) 産品購入意欲度／属性別結果

釧路市、弟子屈町とも属性別で目立った傾向は見られない。

【観光意欲度：釧路市・弟子屈町の属性別ポイント】

	属性	サンプル数	産品購入意欲度		
			食品	食品以外	産品購入意欲度
単位	人	点	点	点	
全国平均	642	5.9	1.7	7.5	
全体	722	24.8	4.8	29.6	
居住地	北海道・東北	84	28.5	5.2	33.7
	関東	247	27.4	4.9	32.3
	中部	133	20.6	6.4	27.0
	近畿	138	18.5	2.6	21.1
	中国・四国	55	37.0	0.0	37.0
	九州・沖縄	66	21.9	8.9	30.8
年代	20代	148	22.3	2.1	24.5
	30代	154	21.4	7.4	28.8
	40代	122	15.5	5.5	21.0
	50代	155	27.3	3.8	31.0
	60代以上	144	36.2	5.2	41.4
性別	男性	369	24.5	5.6	30.1
	女性	353	25.2	3.9	29.2

	属性	サンプル数	産品購入意欲度		
			食品	食品以外	産品購入意欲度
単位	人	点	点	点	
全国平均	642	5.9	1.7	7.5	
全体	722	1.4	1.2	2.5	
居住地	北海道・東北	84	2.1	2.4	4.6
	関東	247	0.0	0.0	0.0
	中部	133	2.1	2.1	4.1
	近畿	138	2.2	1.1	3.3
	中国・四国	55	1.9	0.0	1.9
	九州・沖縄	66	1.8	3.1	4.9
年代	20代	148	0.0	0.0	0.0
	30代	154	0.8	1.3	2.1
	40代	122	0.0	0.6	0.6
	50代	155	1.8	1.8	3.6
	60代以上	144	4.1	2.0	6.0
性別	男性	369	1.0	1.8	2.8
	女性	353	1.8	0.5	2.3

【観光意欲度：釧路市・弟子屈町の産品一覧】

釧路市			
食品		食品以外	
件数	産品名	件数	産品名
47	カニ	3	ガラス製品
51	海産物	5	木彫り製品
8	秋刀魚	3	まりも
8	鮭	1	二ボ歩人形
6	ホッケ	1	ホタテ
2	いか	1	ゆき
5	イクラ	1	ラベンダー
5	ウニ	1	阿寒湖
4	昆布	1	湿原
3	ジャガポックル	1	手作り家具
2	チーズ	1	鉄鋼
2	とうもろこし		
4	ラーメン		
2	メロン		
2	牛乳		
3	生キャラメル		
2	地ビール		
4	白い恋人		
2	炉端焼き		
1	夕張メロン		
1	えび、ご当地あめ、たこ、タンチョウの卵、ハスカップ、バター、ほたて、ぼたんえび、マグロ、マルセイバターサンド、山わさび、寿司、勝手井、食品、乳製品、農産物、蔘の漬けもの、有名駅弁(海鮮)、酪農製品		

弟子屈町			
食品		食品以外	
件数	産品名	件数	産品名
2	牛乳・乳製品	2	アイヌ文化民芸品
1	かに	1	ていぼう
1	ぎょうざ	1	温泉
1	するめこんぶ	1	熊の彫り物
1	蕎麦	1	雪
1	肉		
1	羊羹		
1	魚介類		